

国語科学習指導案

日時 平成28年6月2日(木) 公開授業Ⅱ
学級 岩手大学教育学部附属中学校 3年C組
会場 1C2A教室
授業者 西澤孝司

【学習者の実態】

【身に付けさせたい力】

○ 詩歌の学習を通し、「ことば」や「表現」にこだわって読み、作者の思いを考えたり、自ら表現したりする活動を行った。
○ 昨年度までの説明的文章の学習で、要旨をとらえたり、文章の構成や展開について、根拠を明確にし自分の考えをもったりすることはできる。しかし、表現の仕方を意識して読む学習経験は不足している。

◎ 文章を読み比べ、構成や展開、表現の仕方について、根拠を示しながら文章を評価し、自分の考えをまとめる力。(C-U)
○ 文章中の言葉の意味や作品を評価するための言葉について理解し、内容を理解したり批評したりする力。(伝-I(I))

1. 単元名 論の進め方や表現についてレポートにまとめよう

2. 単元の目標 文章を比べ読みしながら構成や展開、表現の仕方をとらえ、内容と関連付けながら評価することができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆ 文章の構成や展開、表現の仕方などを評価しながら読み、自分の意見をもとうとしている。

【読む能力】

☆ 文章の構成や展開、表現の仕方などを評価しながら読み、自分の意見をもっている。(C-U)

【言語についての知識・理解・技能】

☆ 文章中の言葉の意味や作品を評価するための言葉について理解し、内容の理解や批評に役立てている。

(伝-I(I))

4. 学習材 『黄金の扇風機』(東京書籍「新しい国語3年」)
『サハラ砂漠の茶会』(東京書籍「新しい国語3年」)

本学習材は「美」という同じ話題について書かれた評論文である。「黄金の扇風機」は双括型の構成で、段落の初めに多くの接続詞を配置したり、ナンバリングを使用したりしながら論を分かりやすく展開している。また、自らの体験を根拠とし、自らの考えを婉曲的な表現を用いて表現している。一方「サハラ砂漠の茶会」は尾括型の構成で、自らの体験を含むいくつかの具体例を根拠として用いながら説得力を高め、自らの考えを断定的に表現している。また、基本的には敬体で書かれているが、ところどころ常体の文も見られる。この二つの文章を比較しながら読むことで、内容面はもちろんのこと、形式面での共通点や相違点も読み取ることができ、そこにみられる、筆者の意図や効果について考えることができる学習材である。

5. 単元構想

本単元では二つの文章を読み比べながら構成や展開、表現の仕方について評価し、レポートにまとめさせる。中学校第三学年で学ぶ初めての説明的文章の単元であることから、まず、自分の既習事項を振り返るところからスタートさせたい。そして、単元で既習事項を活用させながら文章の読みを深めさせていきたい。本単元では内容面、形式面を批判的にとらえ、評価するために比べ読みを行っていく。内容面の比べ読みでは、二人の作者の考えの共通点や相違点を明らかにしながら読み進める。そして、それぞれの筆者の考えをとらえてから形式面を比べ読みこととする。形式面の比べ読みの視点は、①構成・展開に関する視点、②叙述・表現に関する視点とし、その中で既習知を活用させながら多面的に分析させたい。特にも本単元では、叙述・表現に着目させたいと考える。構成・展開に関することは学習経験が多く生徒たちも着眼しやすく、これまでの学習経験から評価もしやすいと考える。一方、叙述・表現に関する特徴の効果はこれまでの学習でも意識せずに読むことが多く気づきにくいと考えられる。そこで本単元では二つの文章の特徴の一つでもある文末表現を着眼点とし、内容面と重ね合わせながら読み、その表現の意図や効果について特にも考えさせたい。どのような表現がどのように伝わるのか吟味させ、意図的に文末表現を工夫し自分の表現に役立てられるものにさせたい。単元の最後には、二つの文章のうち、伝えようとしていることが効果的に伝わっている文章だと思う方の文章を評価するレポートを書かせ、単元のまとめとさせたい。

6. 単元の展開（全7時間）

次	時	学習活動	指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）
第1次	第1時	1. これまでの説明的文章の学習を振り返る。 ○既習事項（学習用語）の確認 2. 学習課題を設定する。 3. 単元の見通しをもつ。 4. 『黄金の扇風機』『サハラ砂漠の茶会』を読み、感想を書く。	○単元学習シートを活用しながら、これまでの説明的文章の学習でどのようなことを学んだのかを振り返らせたり、単元の学習の見通しをもたせたりする中で、本単元での学習意欲を高めさせる。 関 これまでの説明的文章の学習を振り返ったり、単元の見通しを理解しようとしたりしている。 （観察・OPPシート）
第2次	第2時	1. それぞれの作品の要旨、主張を比較しながらとらえる。 ○図化しながらまとめる。 2. グループで交流する。 ○内容面での共通点、相違点を確認する。 3. 全体で交流する。	○二つ文章の内容面における共通点や相違点ができるように図化しながらまとめさせる。図化する中で読み取ったことを整理し、比較しながら筆者の主張をとらえさせる。 読 二つの文章の内容や主張について、共通点や相違点をとらえている。（学習シート）
	第3時	1. 構成や表現の仕方などの形式面について様々な視点で比べ読み、特徴をとらえる。 ①構成・展開に関する視点 例（論法・根拠・段落関係） ②叙述・表現に関する視点 例（文体・主述・表現・接続語・指示語） 2. グループで交流をする。 3. 全体で交流する。 ○次時で扱う視点を確認する。（文末表現）	○形式面を比較する際に大きく二つの視点をもたせ比較させる。既習知を活用させ、その視点の中で特徴をとらえ、共通点、相違点を見つけさせる。ワークシートに整理する型を示しながら整理させたい。 読 二つの文章の構成や表現などについて、共通点や相違点をとらえている。（学習シート）
	第4時	1. 考えを伝えるためにどのような文末表現になっているか整理する。 2. それぞれの文章の文末表現の違いに着目し意図・効果について個人で考える。 ○文末表現だけで考えるのではなく、内容面と関連させながら考える。	○二つの文章を比較して読み、気がついた文末表現の違いを整理させる。また、それらの文末表現が、筆者の考えを伝えるためにどのような効果や意図があるのかを個人で考えさせる。 読 二つの文章の文末表現の特徴の意図や効果について自分の考えをもつことができる。（学習シート）
	第5時 （本時）	1. 前時で考えた文末表現の意図・効果をグループで交流する。 ○話し合いの内容をまとめながら進める。 ○特徴的な叙述・表現は何か。 ○それぞれの意図・効果は何か。 2. 他グループのホワイトボードを見て回ったり、交流したりする。 3. 全体交流	○筆者の特徴的な文末表現がどのような意図、効果を生み出しているのかを考えさせたい。前時で考えた個人の考えをグループで可視化させながらまとめさせ、理解を深めさせたい。また、各グループでの話をまとめたボードを見て回ったり、交流したりしながら文末表現の効果について考えを広げさせ、評価させたい。 読 文末表現と内容を関連付けて読み、その効果や意図について評価することができる。（観察・OPPシート）
	第3次	第6時	1. 本単元の学習を踏まえ、伝えようとしていることが効果的に伝わってくる文章だと思う文章についてレポートにまとめる。 ○レポートの項目 ①文章の内容面を図化してまとめる。 ②構成・展開に関する視点（特徴と意図） ③叙述・表現に関する視点（特徴と意図） ④文章を選択した理由 ※②③は小項目を立てる。
	第7時	1. 前時に書いたレポートを読み合う。 2. 単元の学習のまとめを行い、振り返る。	○前時に作成したレポートをグループで読み合い、それぞれの評価の妥当性を中心に交流させたい。また、単元のまとめとして、本単元で学んだことはどんなことなのか、そして、それをどんな場面で活用できるのかを考えさせ、本単元の学習を閉じたい。 関 他者のレポートを読んだり、単元で学習したことについて振り返ったりすることができる。 （OPPシート）
学習事項の活用場面		6月末の学習旅行後に、「美」をテーマとした評論文を書くこととする。その際に、今回の学習事項を生かして書く。	

7. 学びの本質に迫る指導について

○協働的思考力

グループ交流の場面では生徒が能動的にグループ交流に臨み、効果的な交流になるように、何のために交流するのか、交流のゴールがどこなのか、交流の結果をどのように扱うのかなど、目的意識や交流の必然性を明確にして交流させたい。また、交流の場面では、ホワイトボードを活用しながら交流を進めることとする。そのことにより、グループの考えが整理されたり、論点が明確になったりすることが期待され、交流が活性化し、思考の深化が図られると考える。さらには各グループがまとめたボードを見合う場面を設定する中で、気軽に話をしたり、質問をしたりしながら、理解を深めさせていきたい。

○批判的思考力

本単元では批判的に思考するための手立てとして二つの文章を比べ読み、文章を評価させることとする。同じテーマについて書かれた二つの文章の内容を比較したり、文章の論の進め方や表現といった形式を比較したりすることで、生徒は客観的な視点から文章の内容と形式をとらえることができ、自分の考えをもつことができる。それぞれの文章の形式面を、これまでの既習知を活用させながら、多角的な視点で読ませたい。また、グループ交流や全体交流の場では、他者の考えを聞き、自分の考えと比較したり、重ね合わせたりしながら多面的にとらえさせ、自分の考えの妥当性を判断させたい。

8. 本時の指導目標

文末表現の効果について交流を通して考え深めさせる。

9. 本時の構想

本時では前時に個人で考えた「それぞれの筆者の文末表現の意図・効果」をグループで交流しながら、学習課題である「文末表現には、どのような意図や効果があるだろうか。」に迫る1時間としたい。単に文末表現の効果を考えるだけではなく、本文の内容と関連させ、その効果を考えさせたい。どのような意見や考えをどのような効果を期待して筆者は伝えようとしているのか、それぞれの筆者の表現の意図を考えさせたい。着目した文末表現により、様々な意図や効果が考えられるだろうが、グループで交流したり、全体で交流したりする中で、筆者の特徴的な表現やその効果について多面的にとらえてから自分の考えをもたせたいと考える。

本時のグループ学習では協働的な学習が効果的に展開されるよう、ホワイトボードを活用しながら交流を進めることとする。このホワイトボードは自分達の交流を活性化させるためのツールとしても活用するが、後で他者が見ても自分達の考えたことが伝わるようなまとめ方をさせたい。本時では他のグループがまとめたホワイトボードを見歩く時間を設けてから全体交流に入りたい。他グループの考えと自分達の考えを見比べ、全体交流で話題にしたいことを考えさせながら見歩かせたい。グループの隊形や全体での隊形も工夫し、一人一人が主体的に参加できるような雰囲気をつくり学習に臨ませたい。

10. 本時の展開

段階	学習活動	学習内容	時	学びの本質とのかかわり
導 入	1. 本時の学習課題を確認し学習の見通しをもつ。	【前時の振り返り】 ・それぞれの文末表現の特徴をとらえる。 ・文末表現の違いに着目し、それぞれの筆者の意図や効果を考える。 (個人) 【本時の見通し】 ・本時の課題の確認 ・グループ交流の進め方の確認。 ・グループ交流後の流れの確認	5	

【学習課題】

文末表現には、どのような意図や効果があるだろうか。

展 開	<p>2. 前時で考えたそれぞれの筆者の文末表現の特徴を整理しながら意図や効果を考える。</p>		20	<p>■協働的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的や、ゴールの明確化。 ・ホワイトボードを活用し、論点を視覚的に整理しながら、主体的に交流に参加する。 ・他者の考えと重ねたり、比較したりしながら、協働的に学習を進め課題を解決する。 <p>■批判的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで交流したり、他グループのボードを見たり、全体交流をしたりしながら、他者の考えと自分の考えを比較検討する。
	<p>【話し合いの進め方】</p> <p>①テーマ：それぞれの筆者の文末表現の意図や効果について</p> <p>②方法：4人グループでホワイトボードを活用し、可視化する。</p> <p>③進め方：ファシリテーターを中心にそれぞれの考えや話し合ったことをホワイトボードにまとめる。(他の人が見ても分かるように)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が着目した文末表現から考え始める。 (どんな内容をどのような意図をもって伝えようとしているのか) ・分類したり、関連付けたりしながらまとめていく。 <p>④帰着点：それぞれの筆者が文末表現の工夫を通し、読み手にどのように伝えようとしているかをまとめる(収束型交流)</p> <hr/> <p>【黄金の扇風機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～なりかねない」や「～結び付きかねない」という婉曲的な表現を用いることで、現代社会の価値観に対する危険性を読者に考えさせながら読ませる効果をもたせている。 ・「～なりかねない」や「～結び付きかねない」に関わる意見は、あくまで筆者の考えであり、根拠が明確に示されていないところもあるので、強く表現せず、読者に判断させようとする筆者の意図がある。 ・筆者の「美」に対する意見の文末表現は、序論では「～ことだと思ふ」だったが、結論では「～くれるはずだ」と表現が変わっている。根拠を述べた後だからこそ強い表現になっている。 <p>【サハラ砂漠の茶会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には敬体だが、常体の文末もある。「人間は皆同じである」「～分かり合えない」など、筆者の強い思いを伝えたいところは常体を使い、読者に訴えかけている。 ・「～なのです」という断定的な表現を多く用いて自分の考えや意見をはっきり述べているが、後半「～でしょうか」という問いかけを入れながら読者を引き込んでいる。 ・「～できないものでしょうか」と読者に投げかけてからすぐ「私はそうは思いません」と否定表現を用いることで、人間は皆同じであるということ、自信をもって訴えていることが伝わってくる。 ・「～なのです」という文末表現を多用することで、文章にリズムを生み出し、考えを強く印象付ける効果がある。 			
	<p>3. 各グループのホワイトボードをグループで見回す。</p>		10	
	<p>4. 全体で交流をする。</p>	<p>【他グループのボードを見るとき視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で話題にしたいことはないか。 (あのグループのここを聞きたい。) ・この表現の効果はもっと考えたい。 ・気づかなかった特徴・効果はないか。 ・同じ文末表現だが、違う意図・効果を見出していないか。 ・疑問に思ったことはないか。 ・同じ特徴や効果に気づいているか。 <p>【全体交流の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達と対立するような考えはなかったか。 ・新しい発見をしたものはなかったか。 ・納得させられた考えはなかったか。 <hr/> <p>【文末表現の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婉曲的な表現で意見を伝えることで、読者に考えさせながら効果的に自分の考えを伝えることができる。 ・話題によって、多様な考え方ができるものは強く言い切らないことで、個人的な考えとして伝え、読者にも考えさせることができる。 ・文末表現からも根拠の明確さや信憑性を判断することもできる。 ・断定的な文末表現は読者に強い印象を与え、意見を伝えることができる。 	10	
終 結	<p>5. 本時の学習を全体で振り返る。</p> <p>6. 次時の授業の確認</p>	<p>二つの文章のうち、伝えようとしていることが効果的に伝わってくる文章だと思う方についてレポートを書く。</p>	5	<p>■批判的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、文末表現の効果について評価する。